

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成20年4月24日(2008.4.24)

【公開番号】特開2006-259330(P2006-259330A)

【公開日】平成18年9月28日(2006.9.28)

【年通号数】公開・登録公報2006-038

【出願番号】特願2005-77511(P2005-77511)

【国際特許分類】

G 0 3 G 15/20 (2006.01)

【F I】

G 0 3 G 15/20 5 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成20年3月10日(2008.3.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 4】

イエローの画像形成部 Y の現像装置 2 3 にはイエロートナーを、シアン of 画像形成部 C の現像装置 2 3 にはシアントナーを、マゼンタの画像形成部 M の現像装置 2 3 にはマゼンタトナーを、ブラックの画像形成部 K の現像装置 2 3 にはブラクトナーを、それぞれ収容させている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 6】

1 は金属層を有するエンドレスベルト部材としての、可撓性を有する定着ベルトである。2 と 3 は定着ベルト 1 の内側に配設されこれを懸架支持する複数の懸架部材としてのベルトガイド部材と定着ローラ（ベルトと共に回転自在なローラ）である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 3】

この励磁ユニット 7 は定着ベルト 1 の外周面（外面側）の上面側において、ベルト支持体としての定着ローラ 3 とベルトガイド部材 2 とにまたがらせて定着ベルト 1 に所定のギャップ（隙間）を存して対面させて配設してある。この励磁ユニット 7 はブラケット（不図示）等を介して側板 5 0 に固定支持させている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

このように、定着ベルト 1 のみと対向する第 1 の領域（定着ローラ 3 とガイド部材 2 間に相当する領域：ベルトの懸架部材間の領域）と、定着ベルト 1 を支持懸架する部材（定着ローラ 3、ガイド部材 2）と対向する第 2 の領域（：ベルトの懸架部材にて懸架された領域）とに跨るようにコイルを延在させて配置したことで、定着ベルト 1 を十分に発熱させることができ、ウォームアップタイムの短縮化、画像生産性の向上を図ることができる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0038】

TH1 は例えばサーミスタ等の第 1 の温度センサ（温度検出素子：ベルト温度検出素子）であり、図 4 のように、ベルトガイド部材 2 を介することなくコイル 5 と対向した定着ベルト 1 の内面側の位置であって、定着ベルト 1 の幅方向中央部の位置に当接させて配設してある。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0060

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0060】

以上の各実施例における装置は記録材の通紙を記録材中心で行なう中央基準搬送であるが、片側基準の装置に対しても本発明は適用できて同様の効果を得ることができる。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0091

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0091】

本発明の画像加熱装置は画像加熱定着装置としてばかりではなく、その他、例えば、画像を担持した記録材を加熱してつや等の表面性を改質する加熱装置、仮定着する加熱装置等としても使用できる。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0093

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0093】

A・・・画像加熱装置（定着装置）、1・・・ベルト部材（定着ベルト）、2・・・非回転のベルトガイド部材（ベルト支持体）、3・・・回転ローラ（定着ローラ：ベルト支持体）、4・・・加圧体（加圧ローラ）、5・・・誘導加熱コイル、P・・・記録材、T・・・画像（未定着トナー画像）